

# がん対策推進基本計画 全体目標

## 「がんの年齢調整死亡率(75歳未満) の20%減少」の達成見込み 部位別の検討

国立がん研究センター  
がん対策情報センター

がん情報サービス ganjoho.jp

## がん対策推進基本計画

- 2006年6月 がん対策基本法成立
  - 2007年6月 「がん対策推進基本計画」策定
  - 2012年6月 「がん対策推進基本計画」(5年後の見直し)
- 全体目標
    - 1 がんによる死亡者の減少  
「がんの年齢調整死亡率(75歳未満)の20%減少」
      - 2005年 92.4 → 2015年 73.9 (人口10万対)  
(2007年度に掲げた10年間の目標を5年間継続)
    - 2 全てのがん患者とその家族の苦痛の軽減と療養生活の質の維持向上
    - 3 がんになっても安心して暮らせる社会の構築

がん情報サービス ganjoho.jp

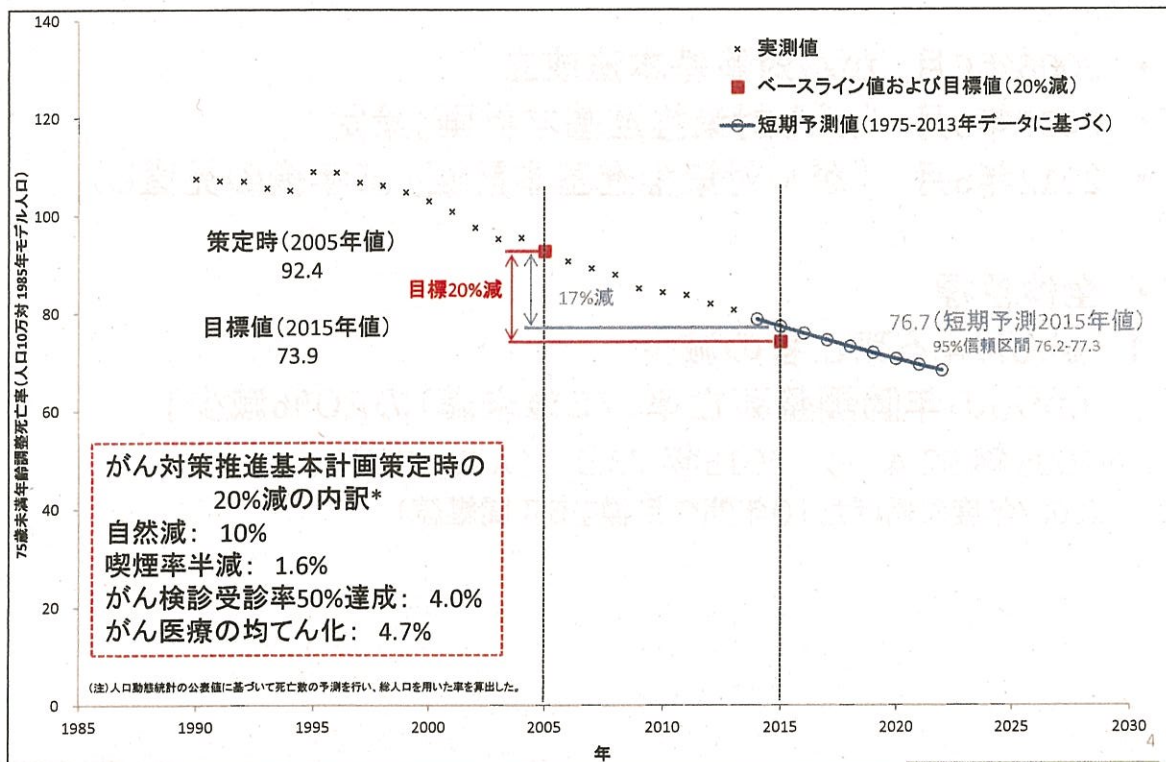
# がん統計の短期予測

- がんの罹患、死亡統計は数年遅れて公表される
- 例えば2015年の最新年は  
死亡2013年(2年遅れ)、罹患2011年(4年遅れ)
- 数理的な手法で当年のがん統計値を得る手法を提案\*
- 過去の傾向が今後も続くと仮定した場合の数年先の値を知ることができる
- 2015年は全体目標「死亡率20%減」の到達年に当たる
- 短期予測を用いてこの目標の達成可能性を検討した(1975~2013年の実測値を用いて2015年を予測)

\* 2014年07月10日プレスリリース2014年のがん罹患数、死亡数予測  
([http://www.ncc.go.jp/jp/information/press\\_release\\_20140710.html](http://www.ncc.go.jp/jp/information/press_release_20140710.html))  
参考文献: Japanese Journal of Clinical Oncology 2014, 44: 36-41

がん情報サービス ganjoho.jp

## 結果: 全体目標は85%の達成度(死亡率17%減)



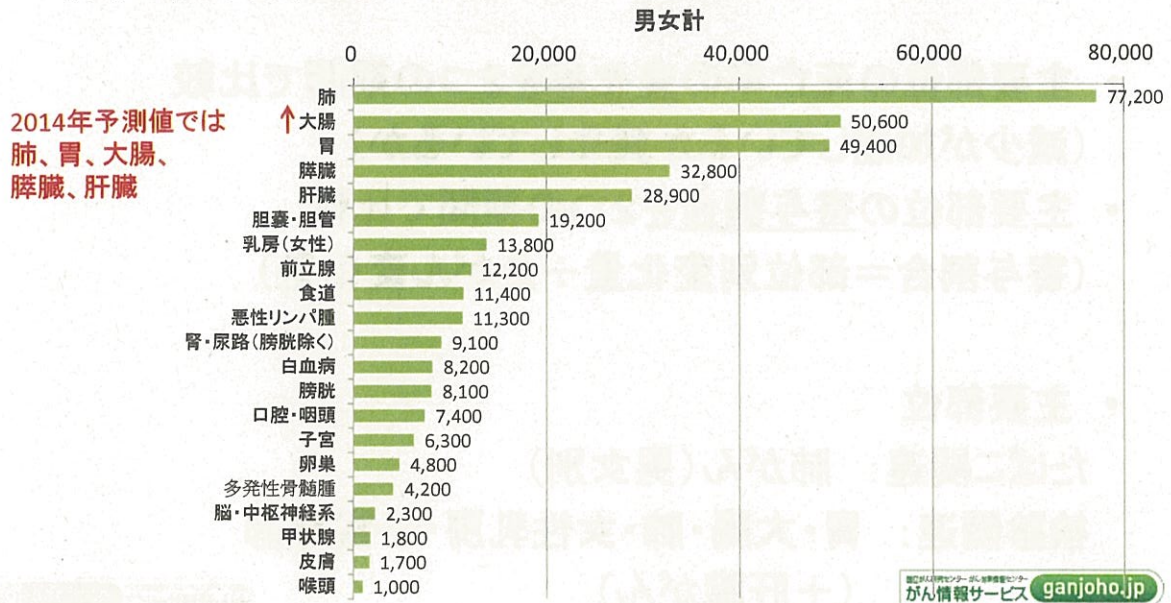
\* がん患者の期待に応えるがん対策推進基本計画の策定のために(<http://ganjoho.jp/public/news/2007/20070927.html>)

がん情報サービス ganjoho.jp



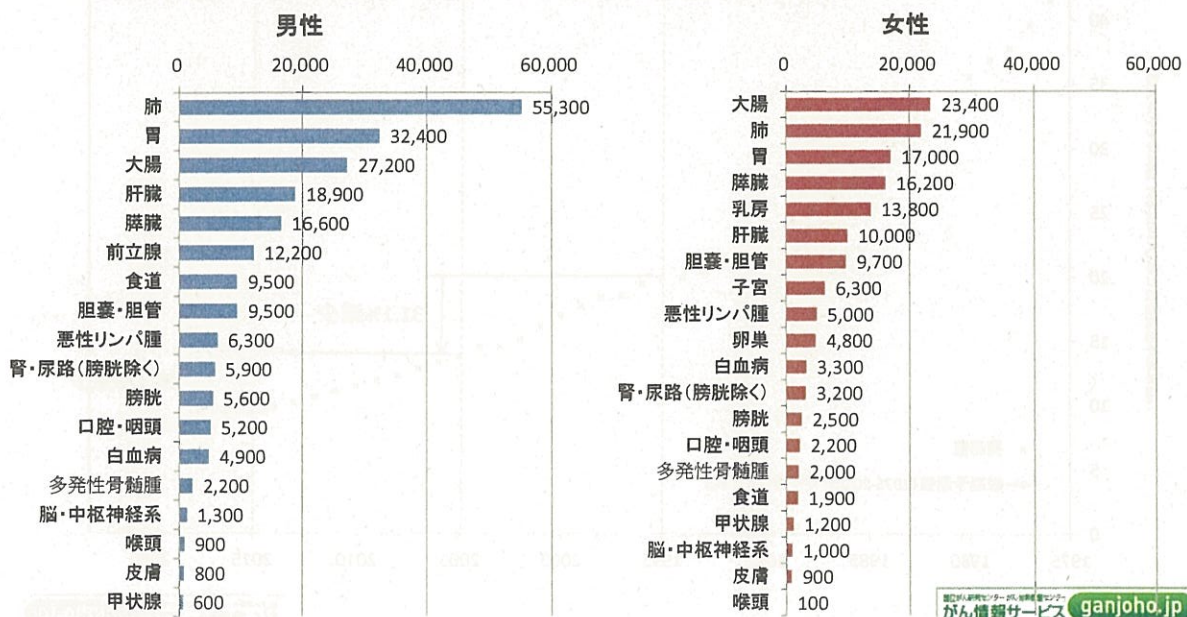
# 2015年のがん死亡予測結果

- 予測がん死亡数は370,900人(男性219,200人、女性151,700人)
- 2014年の予測値と比べるとほぼ同じ(約4千人増加)
- 肺、大腸、胃、膵臓、肝臓の順に死亡数が多い(大腸が↑)



# 2015年のがん死亡予測 男女別

- 男性219,200人、女性151,700人
- 男性は肺、胃、大腸、肝臓、膵臓の順、女性は大腸、肺、胃、膵臓、乳房の順に死亡数が多い(2014年予測値と同じ)

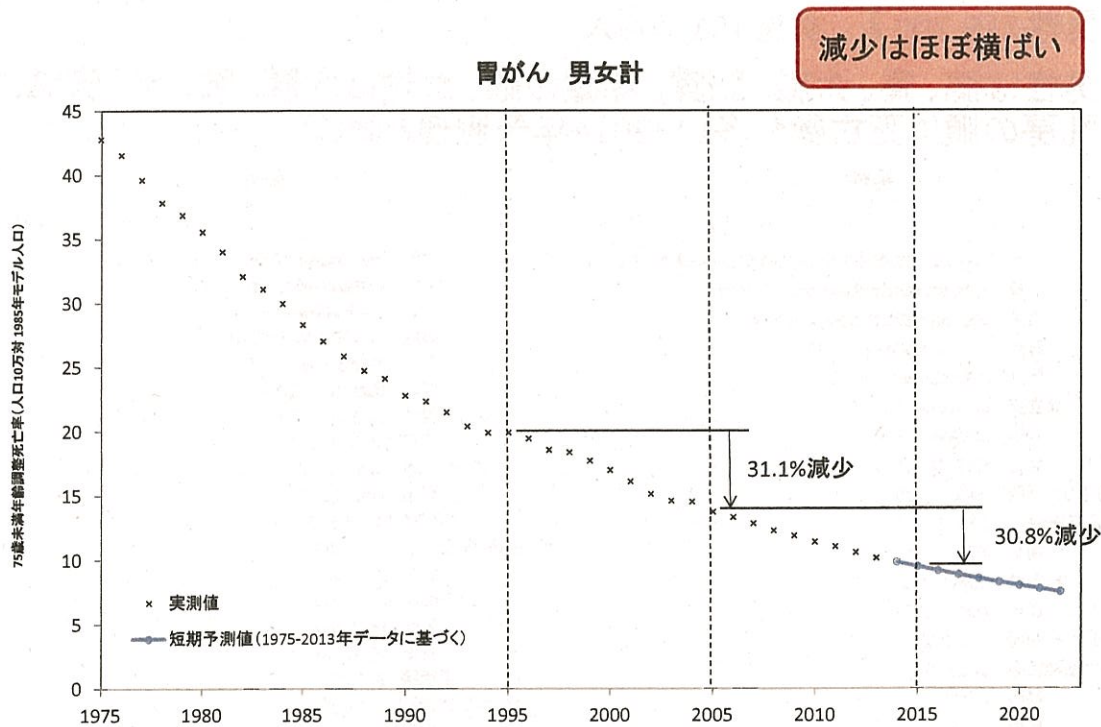


# ①部位別の検討 方法

- 計画前10年： 1995年→2005年  
計画期間10年： 2005年→2015年 と定義
- 主要部位の死亡率の変化率を2つの期間で比較  
(減少が加速しているか鈍化しているか)
- 主要部位の寄与割合を2つの期間で比較  
(寄与割合＝部位別変化量÷全がん変化量)
- 主要部位  
たばこ関連： 肺がん(男女別)  
検診関連： 胃・大腸・肺・女性乳房・子宮頸部  
(+肝臓がん)

がん情報サービス ganjoho.jp

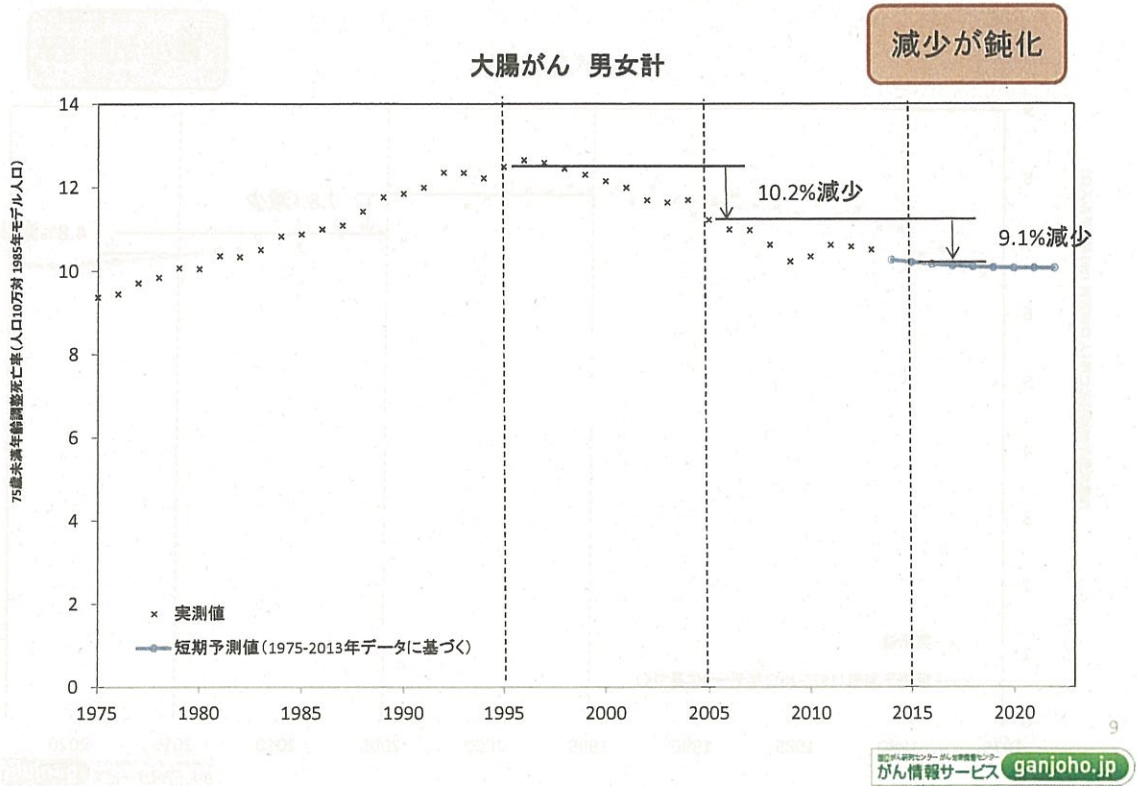
## 死亡率の変化率 胃がん(男女計)



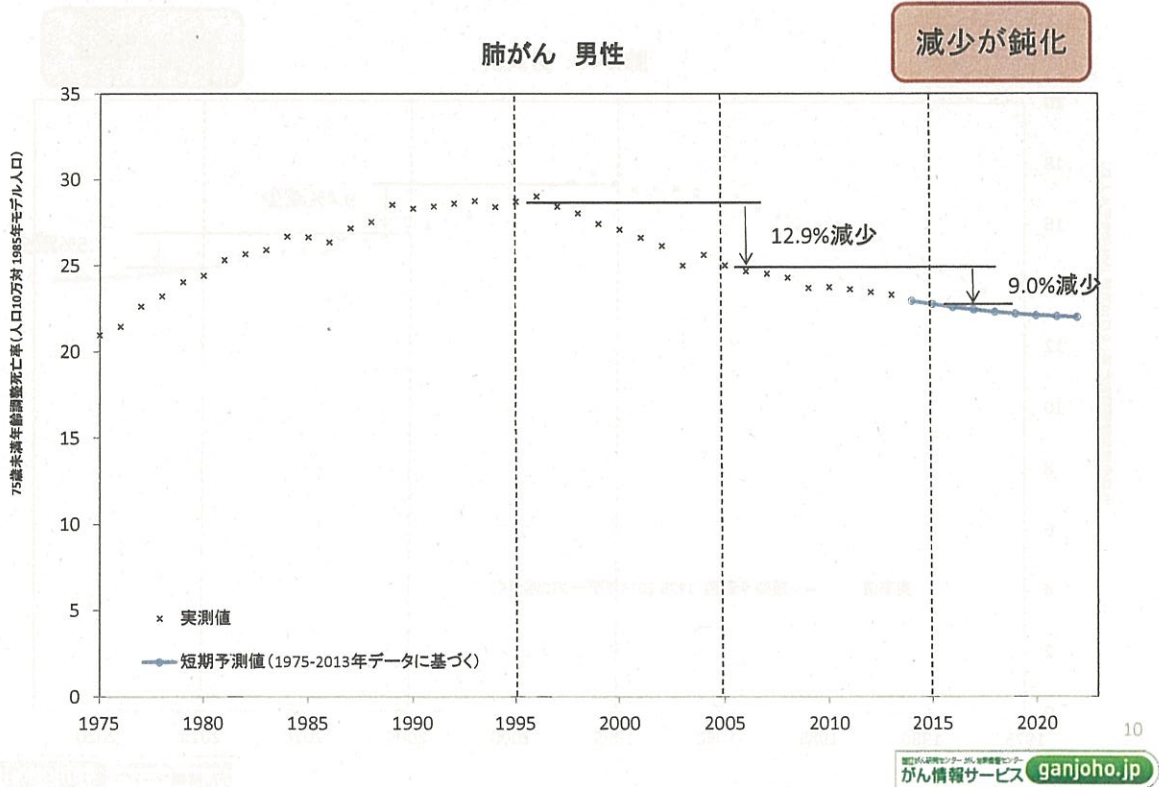
がん情報サービス ganjoho.jp



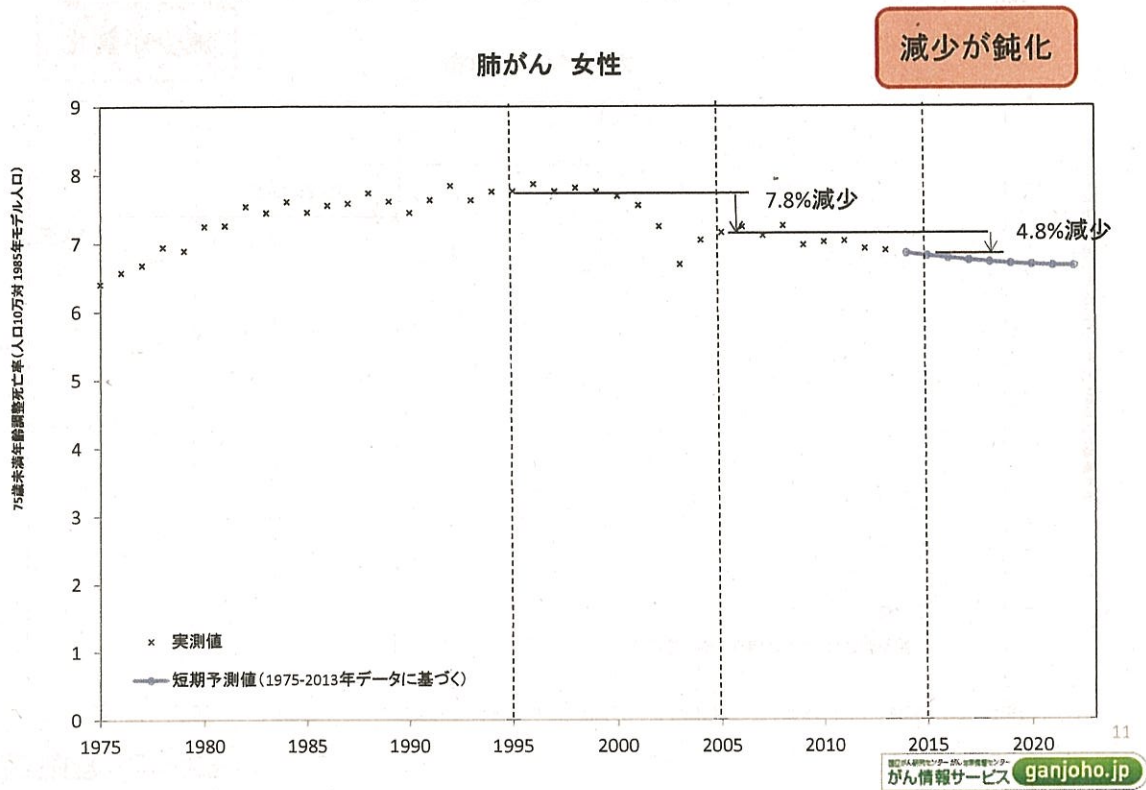
# 死亡率の変化率 大腸がん(男女計)



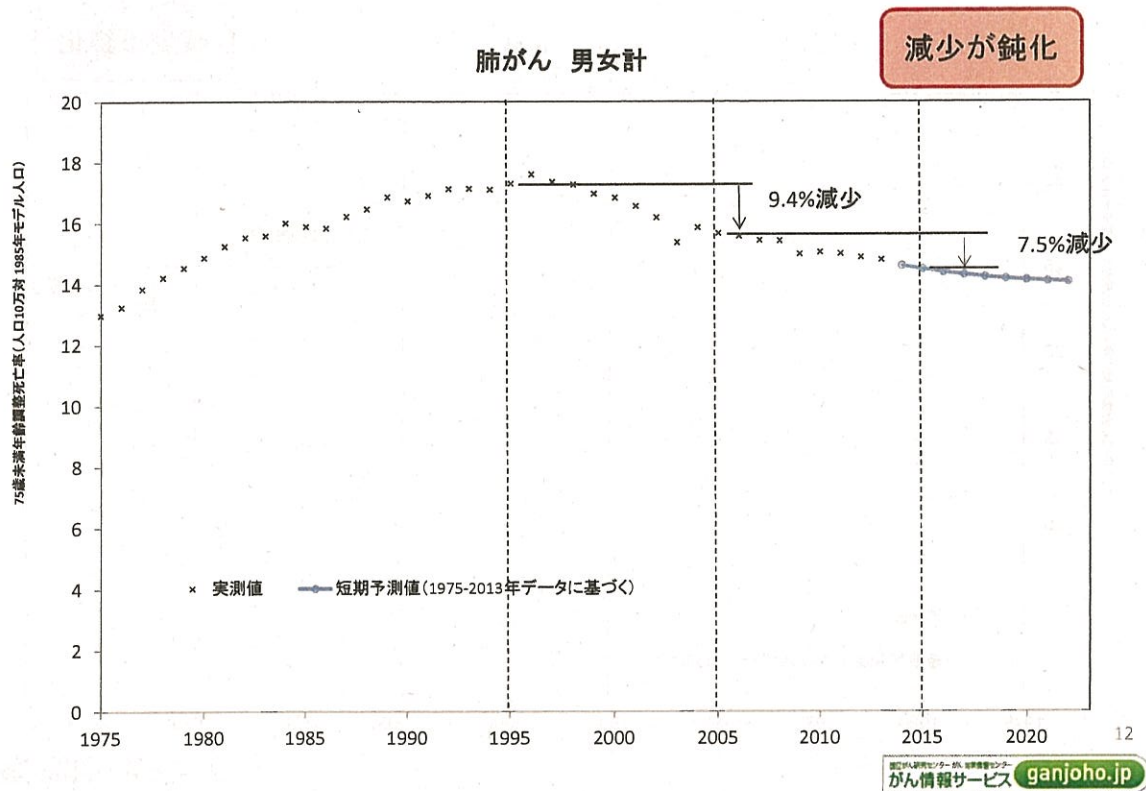
# 死亡率の変化率 肺がん(男性)



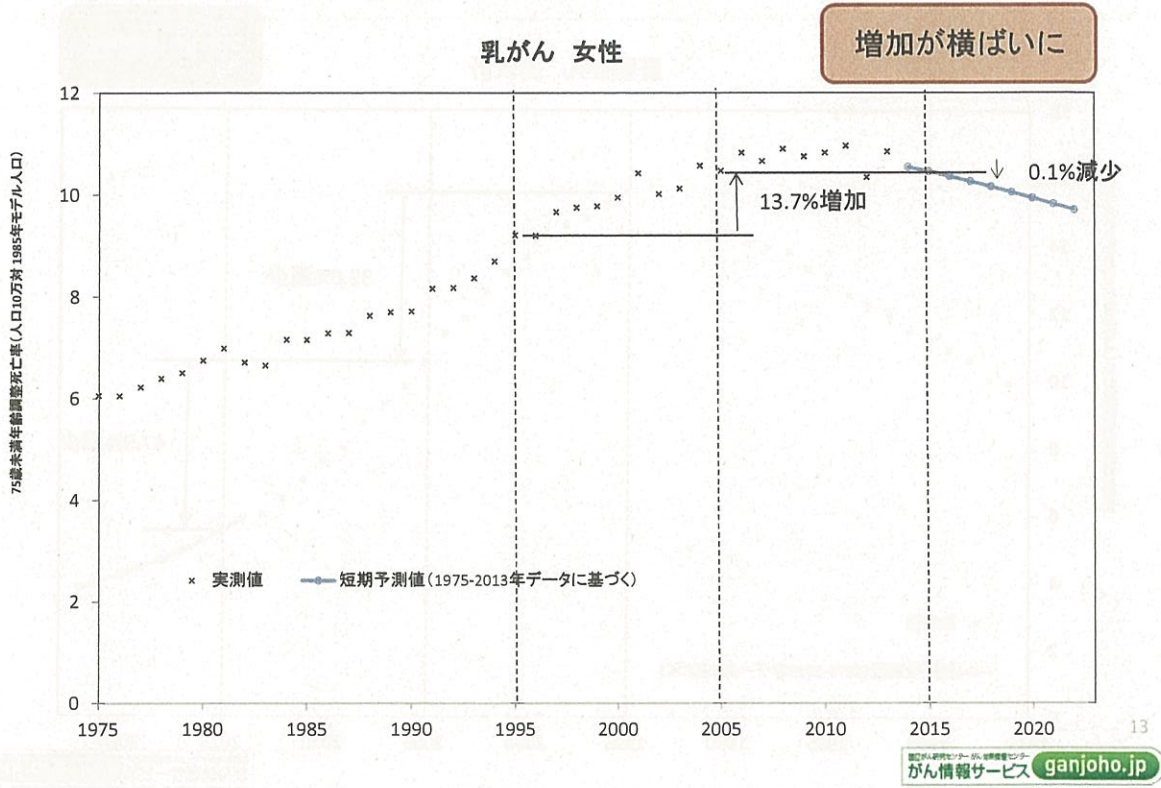
# 死亡率の変化率 肺がん(女性)



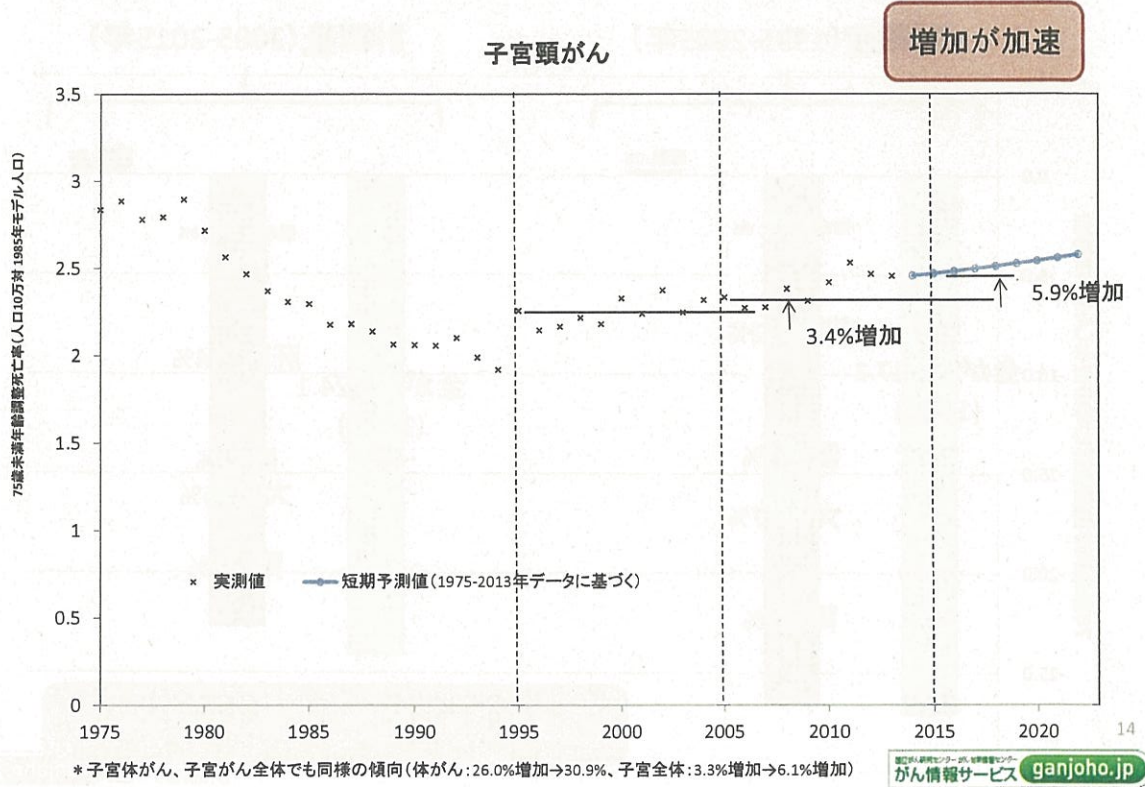
# 死亡率の変化率 肺がん(男女計)



# 死亡率の変化率 乳がん(女性)



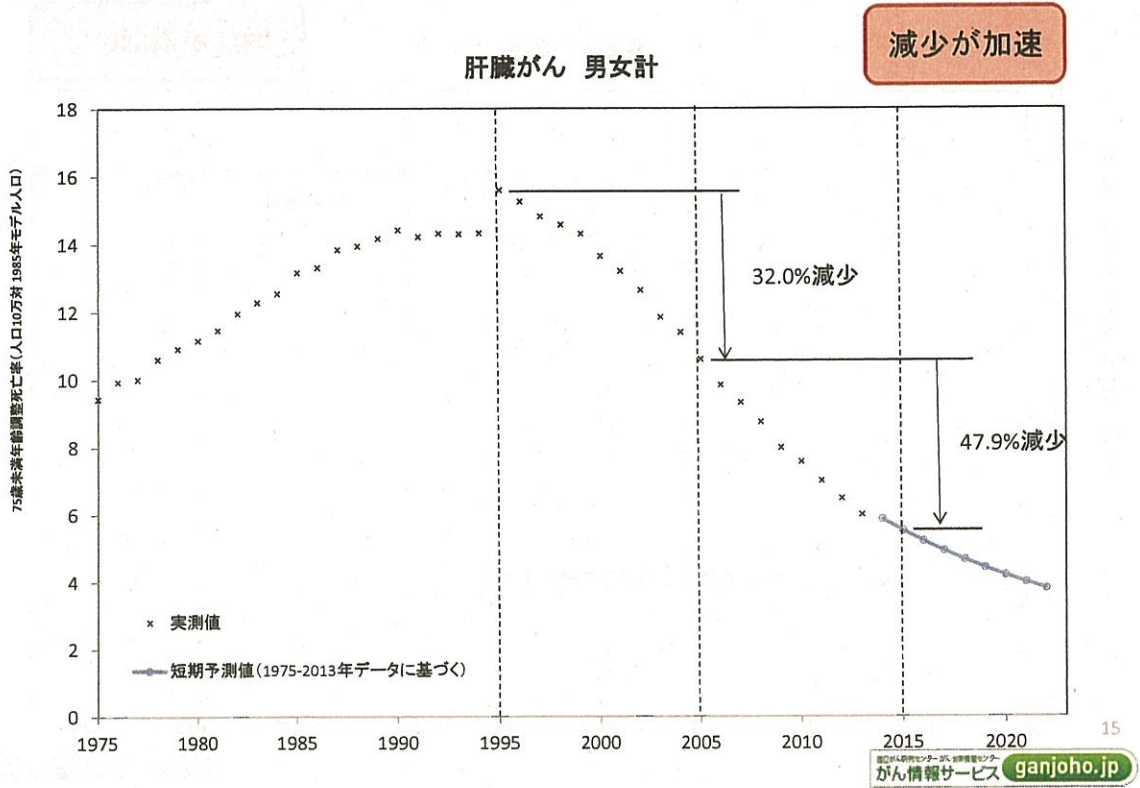
# 死亡率の変化率 子宮頸がん



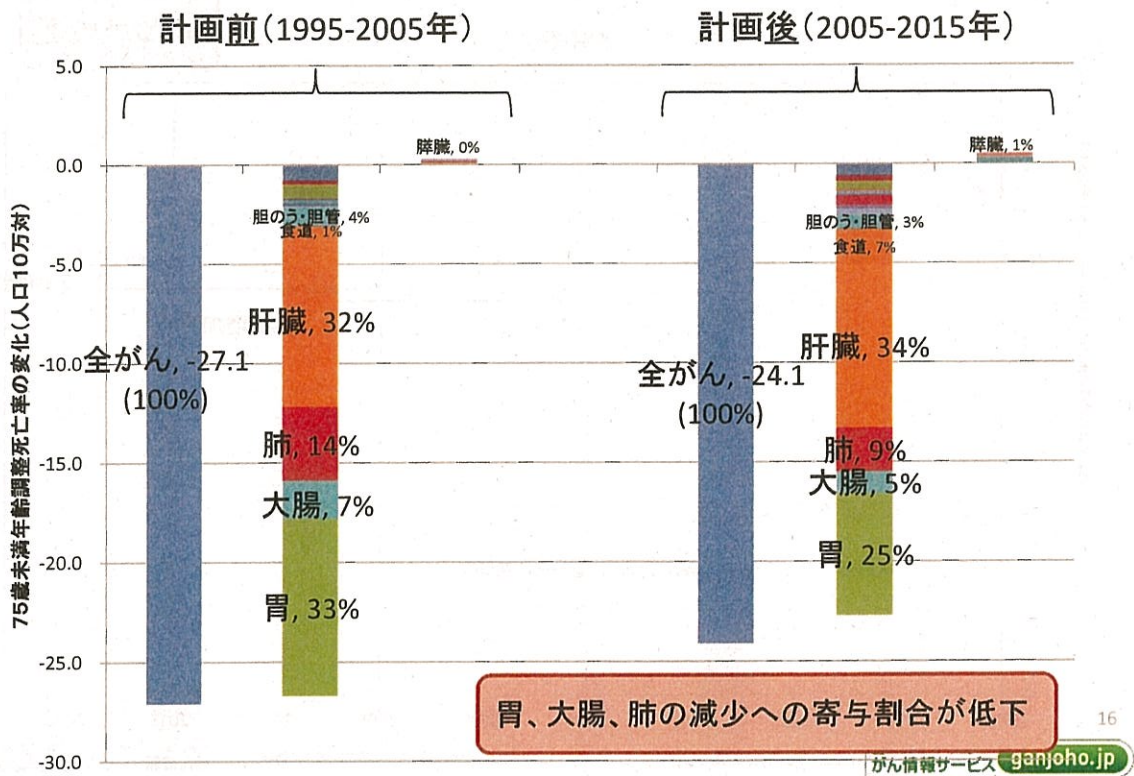
\* 子宮体がん、子宮がん全体でも同様の傾向(体がん:26.0%増加→30.9%、子宮全体:3.3%増加→6.1%増加)



# 死亡率の変化率 肝臓がん(男女計)

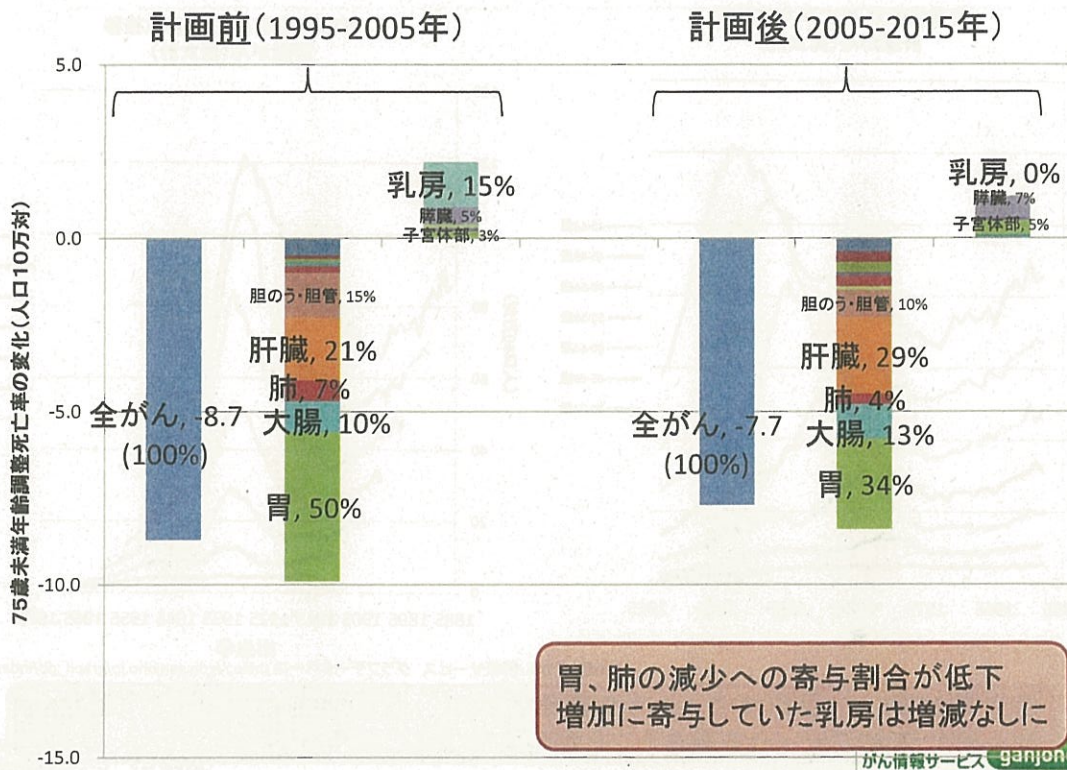


## 部位別の寄与割合 男性

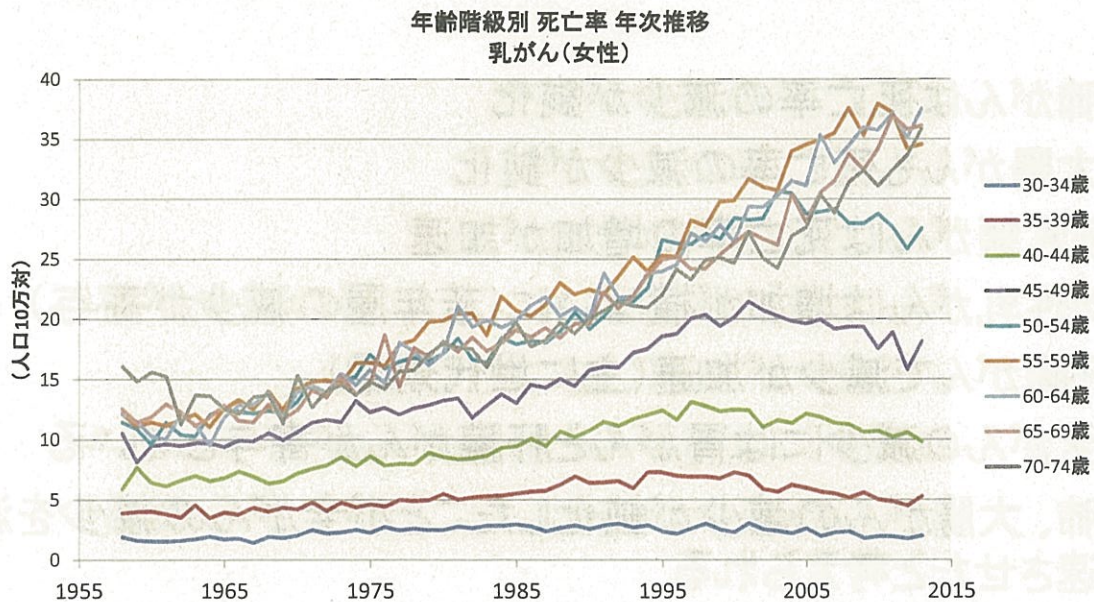




# 部位別の寄与割合 女性



# 年齢階級別の傾向 女性乳がん



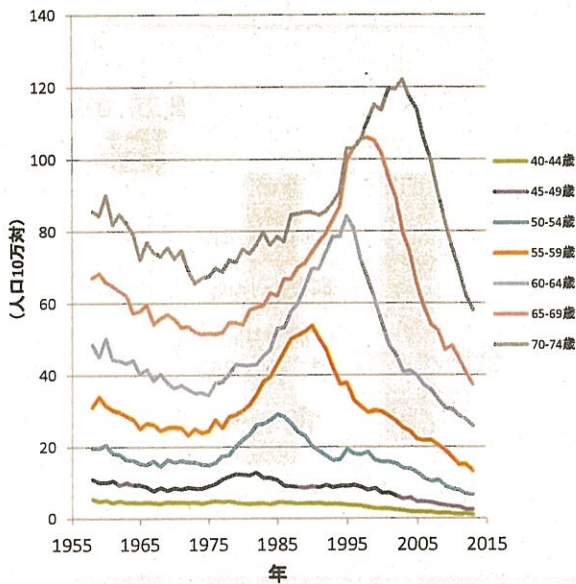
出典: 「がん情報サービス グラフデータベース」[http://gdb.ganjoho.jp/graph\\_db/index?lang=ja](http://gdb.ganjoho.jp/graph_db/index?lang=ja)

35～54歳の若年層(1950年代以降生まれ)では減少しているが、  
高齢層では増加が続いている

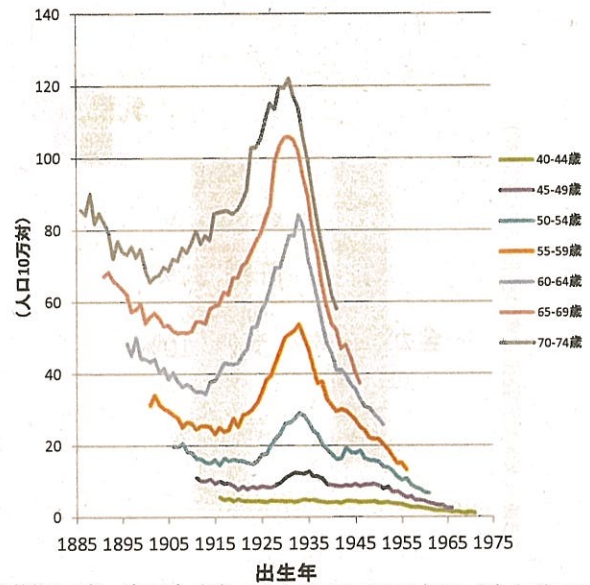


# 年齢階級別の傾向 肝臓がん

年齢階級別 死亡率 年次推移  
肝臓がん(男女計)



年齢階級別 死亡率 年次推移  
肝臓がん(男女計)



出生年  
出典: 「がん情報サービス グラフデータベース」[http://gdb.ganjocho.jp/graph\\_db/index?lang=ja](http://gdb.ganjocho.jp/graph_db/index?lang=ja)

死亡率が高い(C型肝炎ウイルスの感染率が高い)1930年前後生まれの世代が  
がん死亡年齢のピークを過ぎたことが減少加速の大きな要因

## まとめ

- 肺がんは死亡率の減少が鈍化
- 大腸がんも死亡率の減少が鈍化
- 子宮頸がんは死亡率の増加が加速
- 女性乳がんは増加が横ばいに(若年層の減少が寄与)
- 肝臓がんで減少が加速(主に世代効果)
- 全がんの減少には胃がんと肝臓がんが寄与している
- 肺、大腸がんの減少が鈍化したことが全がんの減少を減速させたと考えられる